

2005年度（平成17年度）第4回常務理事会記録

日 時：2005年（平成17年）9月24日（土）14:00～16:00

場 所：東京大学医学部新研究棟2階第2セミナー室

出席者：廣川信隆（理事長）、河田光博、澤田 元、柴田洋三郎、高田邦昭、（以上、常務理事）、依藤 宏（常任幹事）天野恵子、合力靖博（以上、口腔保健協会）

I. 会議記録の確認

1. 2005年（平成17年）度第3回常務理事会記録、同摘録（案）

II. 報告事項

1. 庶務報告（高田庶務担当理事）

- (1) 会員異動報告（正会員2,193名平成17年8月末日現在）

平成17年6月分（入会者 正会員3名、学生3名、退会者 正会員5名、学生5名）、平成17年7月分（入会者 正会員2名、学生3名、退会者 正会員12名）、平成17年8月分（入会者 正会員1名、学生4名、退会者 学生1名、賛助1名）

- (2) 新学術評議員の承認

教授就任にともなう学術評議員申請が2件あり、理事に回覧、承認を受けたことが報告された。なお、承認の2件は以下のとおり。

日本大学歯学部解剖学教室第二講座 磯川桂太郎教授（就任日平成17年4月1日）

日本獣医畜産大学獣医解剖学教室 尼崎肇教授（就任日平成17年4月1日）

- (3) 機関別認証評価に係わる専門委員候補者の推薦結果

先般候補者推薦依頼のあった独立行政法人大学評価・学位授与機構より、平成17年度専門委員については解剖学会より推薦の候補者からの選考は見送った旨返答があった。

- (4) 総会・学術集会開催校希望募集結果

解剖誌6月号及び9月号に募集記事を掲載した2008年度（平成20年度）及び2009年度（平成21年度）総会・全国学術集会開催校希望募集については、今のところ申し出がなく、常務理事会から開催の可能性のある大学について打診を試みることになった。

- (5) 日本学術会議解剖学研連委員会（平成17年9月17日開催）報告

①日本学術会議の新体制 ②科研費の時限付分科細目：平成18年度は解剖研連提案の「疼痛学」が通った。平成19年度は「組織再生と成体由来前駆細胞」で学術会議に提案、学術会議第7部では第2位になっている。③第21回形態科

学シンポジウムが平成17年9月17日名古屋大で開催された等の報告がおこなわれた。

(6) 倫理委員会の設置

平成17・18年度倫理委員会委員として青山裕彦(広島大)、岡部繁男(医科歯科大)、菊田彰夫(産業医大)、河野邦雄(筑波大、委員長)、諏訪文彦(大阪歯大)、中野隆(愛知医大)、吉田重光(北大)が指名されたことが報告された。

(7) 名簿流出に関する問い合わせ

会員より解剖学会の名簿が流出しているのではないかと、何らかの対策を立てて頂きたいとのメールが事務局宛に届いた。解剖学会は名簿を外部には出さない方針が確認された。

(8) 学会宛文書等

①通知・依頼：i) 文部科学省より「平成18年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の公募について(通知)」他4件、ii) 学術著作権協会より「文献提供者に限定的な電子化を許諾する権利の委任について(お願い)」iii) (財)篤志献体協会より「後援願い」及び「賛助金受領御礼」他、11箇所より20件の通知、案内、依頼等が届いている。各種財団、奨励会よりの受賞候補者推薦依頼、奨励金、奨励賞公募等についてはホームページに掲載済である。

②書籍、定期通信他：4箇所より4件の定期通信、報告書が届いている。

(9) その他

①札幌医大で実施された新鮮遺体解剖に関して

標記の件で札幌医大村上教授より常務理事会宛に視察の要請があり、柴田理事が派遣された。常務理事会としては、標記の新鮮遺体解剖は臨床解剖ではあるが、従来からのホルマリン固定遺体を使った医学部生を対象とした教育の解剖とは別のものであると認識している。なお、札幌医大のこの解剖は大学および献体組織のバックアップのもとに実施しているとのことである。(この項は柴田理事よりの報告)

②役員の登記について

法務局の手続きが完了し、文科省へ提出したとの報告があった。

2. 編集報告(柴田編集担当理事)

(1) 解剖学雑誌及びASI刊行報告

両誌とも順調に刊行されており、ASIについてはImpact Factorの申請をおこなった旨報告された。

(2) 平成18年度科研費補助金(研究成果公開促進費)の公募

標記の公募に関する通知が文科省研究振興局より届いた。なお応募の提出期限は11月17日(木)である。また日本学術振興会より標記補助金のうち「学術定期刊行物」及び「データベース」の公募に関する説明会が10月19日(水)東京で

開催との通知があり、高田理事が出席することになった。

3. 企画・渉外報告（河田企画・渉外担当理事）

（1）平成 17 年度奨励賞・解剖組織技術士功労賞候補者公募

標記の公募、推薦のお願いの記事を解剖誌、80 巻 2 号および 3 号に掲載したことが報告された。

（2）平成 17 年度一級解剖・組織技術士資格試験

標記資格試験について平成 17 年 7 月 29 日（金）締め切りとし願書の受付をおこなっていたが、今年度は応募がなかった旨の報告があった。

（3）第 4 回アジア太平洋解剖学会議（APICA）報告

平成 17 年 9 月 7～10 日トルコ、クシャダシにおいて開催された第 4 回 APICA について報告がおこなわれた。参加 32 ヶ国事前登録者 630 名と過去最大規模であり、日本からは 33 名が登録、廣川理事長の特別講演などがあり、充実した大会であった。なお、この件に関し、理事長および河田理事より欧米の解剖学会は弱体化している現状では APICA がこれからの国際的な解剖学会の中心にならざるを得ない。日本解剖学会としても予算配分を考え直し APICA に重点を移してはどうかとの見解が示された。

（4）日米解剖学シンポジウム

海外交流委員会より、人選を依頼していた平成 18 年 4 月 1～6 日米国サンフランシスコでおこなわれる米国解剖学会での日米合同シンポジウム（テーマは Regenerative Medicine）に日本側シンポジストとして佐々木克典教授（信州大学）、出澤真理助教授（京都大学）を推薦する旨、回答があった。この件を本人宛通知したところ、佐々木教授より教室の城倉浩平助教授を自分の代わりに推薦したいとの返事があり、検討の結果了承された。

4. 会計報告（澤田会計担当理事）

（1）平成 17 年度中間決算報告

標記につき、順調に推移している旨、報告がおこなわれた。

（2）第 110 回日本解剖学会総会・全国学術集会収支決算（仮）報告

標記の仮報告書が同総会・全国学術集会大谷修会頭より提出・了承された。

（3）その他：学会の預金で 1 千万円を超えているものについては、決済預金とすることが決定された。

III. 審議事項

1. ASI 経費値上げについて

Blackwell Publishing より学会事務センターの破産により昨年度は据え置きとなっていた出版費用の契約更新案の書類が届いた。その要点は 1 会員あたりの Publishing Fee を現行の 2,200 円から 2,400 円にすること、電子投稿・査読システムを導入すること、編集オフィス費用を現行の 120 万円／年から 150 万円／年にす

ることなどである。今後、電子投稿・査読システムを導入する方向で Blackwell と交渉をおこなうことが決定された。

2. 科研費審査委員候補者選挙

標記審査員候補者推薦に関しては日本学術振興会からは今年度はまだ何の連絡もない。しかし昨年度書類によると「当分の間、候補者に関する情報提供を依頼」と記載されているので、学術振興会より依頼文書が届いた時点で、昨年度と同様の形式で選挙を実施することが決定された。

3. 日本生理学会との合同学術大会の開催について

検討されていた 2007 年大阪において開催予定の全国学術集会を日本生理学会との合同の学術大会とする件について、日本生理学会より会場費がネックとなり断念せざるを得ないとの連絡が入り、承認された。

4. 公益法人の業務等適正な運営について

以前報告（平成 17 年度第 3 回常務理事会記録）した文科省よりの標記通知に対し、定款第 21 条に定められた職員に関する規則について検討がおこなわれた。

5. その他

① IFAA：トルコ、クシャダシの APICA 会場において開催された IFAA Executive Committee の Supplementary Meeting に関する議事録が会長の B.Thomas より届いた。この内容について検討がおこなわれた。

② 事務局より事務委託費に関する提案：事務局より各種選挙、科研費に関する業務はオプション業務であるので別途見積もりを出したい旨、提案があり了承された。